

泉大津のハヤブサを守ろう



原作 日本野鳥の会大阪支部 保護部

納家 仁(なや ひとし)

編集 泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部

泉大津から日本のハヤブサの新しい歴史が始まる・・・

- 2004年春 ホテルサンルート関空で、大阪府下で初めて、ハヤブサが繁殖に成功
- ビルなどの建物を利用しての繁殖の成功は、金沢での事例に次いで全国で2例目
- 2005年も営巣・・・4卵を残し途中放棄
- 2006年、泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部発足、ハヤブサ保護の活動が本格スタート

ハヤブサとはどんな鳥か

ハヤブサ(ハヤブサ目ハヤブサ科)

学名 *Falco peregrinus japonensis* 漢字名 隼

ハヤブサは、海岸、河口、河川、農耕地などに生息し、海岸の断崖の岩棚などで繁殖する。

欧米各国では、泉大津のハヤブサのように、ビルなどの建物を繁殖に利用する例が一般的になってきている。

オスは全長約42cm、メスは約49cmとオスよりひと回り大きく、翼を広げると1mに達する。



法などによる位置づけ

- 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律：国内希少野生動物種に指定
- 環境省レッドリスト VU：絶滅危惧Ⅱ類
- 大阪府における保護上重要な野生生物
 - ー 大阪府レッドデータブックー
 - 絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種

ハヤブサのからだ

【翼】

翼を広げると約1mになる。
飛んでいるときには翼は
細長く先が尖って見える。
上空から獲物をめがけ急降下
しているときの速度は時速
300Kmを超えるといわれている。



ハヤブサのからだ

【目】

目の色は黒褐色で、黄色いアイリングが目立つ。

【くちばし】

他のタカが足だけで獲物を殺し、くちばしは獲物を引き裂いて食べることに使うが、ハヤブサは、上くちばしの両側にくびれた「かぎ」をもっており、このかぎと足を使って獲物を殺す。



▲朝日放送ニュースゆう「独占映像！
都会のハヤブサ」から

ハヤブサのからだ

【足】

体に比べ大きな足をもち、空中で獲物にパンチを食らわせ仕留めることがある。

【声】

ふだんはほとんど鳴かないが、繁殖期には侵入者に対し「キツキツキツ」とか「ケーケーケー」と聞こえる声で鳴く。ヒナは餌をねだるときに「ピーイ、ピーイ」と鳴く。



ハヤブサのくらし

【食べ物と狩り】

ハトやムクドリ大の小鳥が主な獲物。

シギやチドリなどの渡り鳥や冬には小型のカモなどを捕らえることもある。

ハヤブサは、お気に入りの見張り場に止まり、空に鳥が現れるのを待つ。

【マークの上がお気に入り】

飛んでいる鳥を上空から急降下して猛スピードで追いかけて、大きな足でけ落とししたり、そのまま足でつかみとったりする。

捕らえた獲物は、大きな獲物の場合はそのまま地上で食べたりするが、運びやすい小さな獲物の場合は安全な止まり場まで運んでから食べる。



ハヤブサのくらし

【食べる、たくわえる】

ハヤブサは、たくさん獲物がとれたときは、岩の隙間などに、食料を備蓄する。



いつもの止まり場でヒヨドリを食べる

ホテルにはちょっと迷惑なハヤブサの落とし物(食痕やペリット)

■ハヤブサなどの猛禽類は、消化しきれない鳥の羽毛や骨などを固まりにして吐き出します。ペリットや食痕として残された骨などからハヤブサ がどんなものを食べているのか調べられます。



ハヤブサの生活サイクル

■ハヤブサは一度つがいになると、どちらかが死ぬまで、つがい関係が続き、繁殖期以外にもいっしょにいることが多い。



ハヤブサの生活サイクル

求愛 1月～ ディスプレイ飛翔

■オスとメスが追ったり追われたりしながら飛んだりする。巣の近くで求愛給餌(餌渡し)や交尾も見られる。巣は岩棚などをそのまま利用し、自分ではつくらない。

産卵 3月中旬～4月上旬

■ニワトリの卵より一回り小さいぐらいの赤褐色の卵を2～3日おきに、3～4個産む。



ハヤブサの生活サイクル

抱卵 3～5月

■主にメスが行う。約30日で孵化。オスは、抱卵中のメスに餌を運ぶが、巣から離れた場所や空中で餌渡しが行われることが多い。

子育て

■ 孵化後間もない雛はヒヨコぐらいの大きさに純白の羽毛に覆われている。雛が小さいうちは、メスが雛を抱き続ける。雛への給餌はメスが行う。孵化後12日を過ぎると厚い綿羽が生えはじめ、体温調節が可能となり、メスも狩りに出かけるようになる。



ハヤブサの生活サイクル

子育て 雛の成長



ハヤブサの生活サイクル

巣立ち 6月中旬～7月上旬

■ 孵化後30日を過ぎると雛は親鳥とほぼ同じ大きさになり、褐色の羽毛に覆われる。

■ 孵化後35日～40日で巣立ちする。巣立った幼鳥は、約1月ぐらいの間、巣の近くで親から餌 をもらう。



きららセンタービルの屋上に留る巣立った幼鳥

泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部に ご参加、ご協力よろしく申し上げます！

会では、次のような活動に取り組みます。
ホテルで繁殖するハヤブサの保護と啓発
—都会に住むハヤブサとの共存を図る—

- 1 ハヤブサ保護の関する知識と理解を深めるための観察会やセミナー等の開催
 - 2 ハヤブサの繁殖活動の監視と保護対策の実施
- ハヤブサ監視・観察用ネットワークカメラの設置



子育ても守りカメラ

ハヤブサ監視・観察用ネットワークカメラの設置
ホームページでリアルタイムにハヤブサの様子が観察できる

泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部 *Izumitsu Falcon, Support Club*

子育て見守りカメラの映像



Camera-No.1



Camera-No.2

[HOME](#)

[スマホ用](#)

「Camera-No.1」と「Camera-No.2」について

Camera-No.1はハヤブサのヒナたちが走り回るベランダを中心に見守ります。
Camera-No.2はハヤブサの巣の中を中心に見守ります。

地域の環境づくり

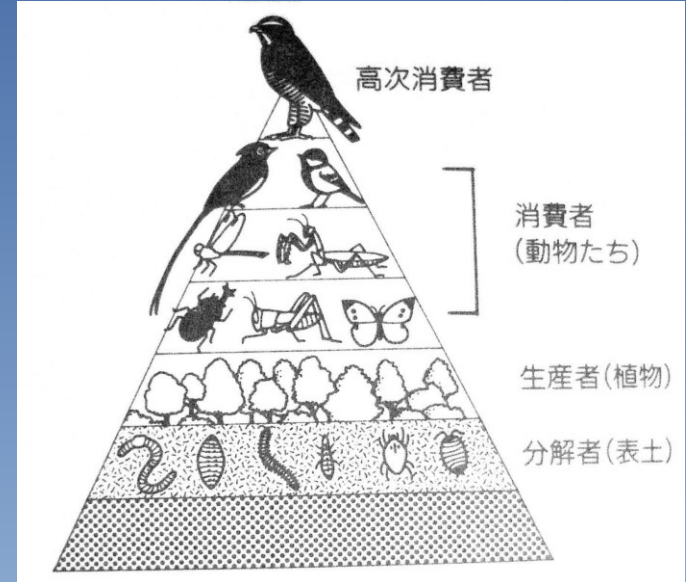
ハヤブサが泉大津でこれからもくらししていける地域の環境づくりを



ハヤブサなどの猛禽類を守る意義

■ 食物連鎖の頂点に立つ猛禽類の存在は生物多様性の指標

■ 単に数が少なく貴重だからという理由だけでなく、生物の多様性を守るという大きな意味を持つ



生態系ピラミッド

ハヤブサにとって重要な餌場

大津川や海辺の埋立地がハヤブサにとって重要な餌場



■身近な自然を守ることが、ハヤブサを守ることにつながる。